日本総合研究所

志望動機

私は日本総合研究所では自分自身が持っている課題分析力とユーザーニーズに併せた実行力を生かして使い勝手が良い金融サービスを提供し、世の中の人がより安心に生活できる仕事を通して、社会に還元したいと思い応募いたしました。現職ではユーザーに安定的なサービスを提供するために誰が読んでも理解できるコードを書くことで過去の余分なコードとテストケースの抜け漏れを発見し、不具合を防ぐことができました。さらに、生成AI開発においてユーザーニーズを活発的に調査し、それに基づいてチャット画面のリデザインを提案し、使用者の操作時間とアプリの性能を改善しました。私はこれらの経験を生かして、日本総合研究所の理念であるお客様満足の最大化をベースとして止まることが許されない金融システムにモダナイゼーションや、新たなデジタルサービスの変化と多様性を創出したいと考えております。

その理由に踏まえて、日本総合研究所をさらに調べると同業他社と比べて、この直近２年間では、脱炭素やグリーンエネルギーについてのニュース件数が圧倒的であることがわかりました。私は企業、特に研究機関は社会がもっと便利になるために最先端技術を開発して応用することはとても素晴らしいことだと思いますが、それよりもわれわれが住んでいる環境にも十分配慮を払うべきだと思います。そこで、日本総合研究所は2019年からサステナビリティ社会実現の課題を挙げ、特に直近の２年間のグリーンエネルギーや脱炭素への取り組みが重視されていることがわかりました。日本総合研究所の環境を大切にしながら街を作る理念が私の心に響き、ぜひ日本総合研究所で日本をはじめ世界中に環境を配慮した発展へ貢献し、そして将来、発展途上のベトナムにもこの理念が広がり、人類が住む場所を守っていきたいと思います。

転職理由

私はコスト重視ではなく、コストと品質をバランスよく取ることで、お客様や社会が抱えている課題にイノベーションと革新を引き起こし、付加価値が高い街づくりを実現したいと考えておりますため、転職することにしました。私の現職では、コストを抑えるために、オフショアの開発チームと日本側のマネジャーが基本体制としてプロジェクトを進行しております。そこで、開発チームは素晴らしい技術力を持っているにもかかわらず、ユーザーと触れ合う機会がほとんどないため、実行した機能とユーザーが求める商品にミスマッチが頻繁に発生しております。一方、マネジャー側ではユーザーのニーズを十分に理解しており、新しい技術なども幅広い知識がございますが、実際にそれらの技術を応用するにあたってリスクの想定が見合っていないため、従来のやり方にロールバッグしてしまい、高い付加価値に至りませんでした。そこで、日本総合研究所のプロジェクト事例を観覧させていただき、関連部署との調整を効率的に行うために、担当のマネジャーが海外へ出張し、コミュニケーションを工夫するほか、開発メンバーが各拠点へ足を運び重要な工程を確認するなどがわかりました。私は、技術力とユーザーニーズの理解を両立したいため、現職最先端の生成AIプロジェクトに参加しながら、ユーザーの利便性を高めるために、自ら新しいチャット画面を提案し、システムの性能を改善すると共に新規ユーザーを獲得することができました。そのため、日本総合研究所では私の新技術への好奇心と顧客第一の理念を生かして顧客に高い付加価値のサービスを提供し、社会の発展を加速させたいと考えております。以上の理由を持ちまして、転職活動をはじめ、日本総合研究所を第一希望として応募させていただきました。

前職をやめる必要がないではないでしょうか。

現職ではできないのか

現職で横つなぎを改善するために、私はいくつかの努力を行ってみました。日本側では、私は部署内外にかかわらず、開発スキルや仕事効率化方法を自発的に工夫し、同僚に連携しました。具体的には、プログラミングのコツを同級生に共有し、課題が発生したときにデバッグを手伝いました。途中で部署を変更し、COBOLを扱うことになった部署外の方に研修を手伝うことにしました。また、自分がボランティアで参加し、生成AIの開発から身に着けた生成AIの利用のコツを部署内外の全員に共有することで、効率化を図り、社内全体に生成AIの利用を拡大しました。これらの積極性は、担当マネジャーだけではなく、CTOも認めてくれて、引き続き発揮してほしいと言ってくれました。

一方、オフショア側の横つなぎに関して、毎年の面談では私がマネジャーと相談して、オフショアの方々を日本に招待するなどのイベントを伺いました。マネジャーは可能であればそういう機会を実現したいと考えておりますが、会社ができるだけコスト削減する方針を取っているため、難しいと教えていただきました。そのため、社内のつなぎと違ってオフショア側の横つなぎを実施するには、私が少なくともマネジャー以上でなければ実施できないとわかりました。横つなぎは品質だけではなく、将来の顧客満足度と提供できるサービスに大きく影響があると考え、コストと品質のバランスをより取っている日本総合研究所に応募いたしました。

日本総合研究所で実現したいこと

転職してどのような仕事をしたいのか

私は日本総合研究所でプロジェクトマネジャーとして生成AIなどのクラウド最先端技術と顧客のニーズを重視した高品質を両立できるクラウドアプリを短い開発周期に実現し、金融サービスに革新を加速したいと考えております。今の時代はコロナ感染症、戦争、物価高などにより、人々が将来と資産運用において多少不安を抱いていると私が思います。そこで私が現職で経験した高い信頼性を持つシステム開発経験と生成AIを用いて、資産運用アシスタントなどといったクラウドアプリを実現したいと考えております。そこで、ユーザーの経済に対する不安感を重視し、利便性と信頼性が高いシステムを提供することにより、新規ユーザーを獲得します。さらに生成AIを利用することで、ユーザーの個別ニーズと背景を十分に解析し、投資プランや運用計画を提供し、不安の時代の中で人々が金融サービスに対して信頼感を勝ち取ります。このように、私は日本総合研究所で革新的なクラウドアプリを提供することにより、顧客から信頼と応援を得て、新サービス、新市場開拓を導き出したいと目指しております。

あなたを採用した場合に発揮できるバリュー

日本総合研究所では私が持っている、大規模なシステムと、生成ＡＩなどクラウド最先端技術開発経験を活かして、停止が許されない金融サービスに安定安全かつ飛躍的にＡＩなどの新技術を用いたクラウドアプリを図りたいと考えております。現職では、保険顧客管理システムの新機能開発を担当しており、将来を備えて信頼して保険加入したお客様にミスなどにより、預かったお金、や契約に相違を起こしてはなりません。そのため、私は開発したプログラムのロジックだけではなく、定義した機能と条件を漏れなく達成できているかどうかも信重に検討して取込みが必要です。ユーザー条件の理解力、課題の発見力と仕事に対して真面目さにより、私は正しく顧客のニーズシステム通して表しい、信頼性が高い金融サービスを実施することができます。さらに、生成ＡＩプロジェクトにおいて、利用者利便性を重視するシステムデザインの提案と実施能力、ＡＩを使った長文書要約機能の便利機能の開発経験を用いて、顧客に新たな利用経験を提供できます。結論として、以上私が保持している経験を活かして日本総合研究所では、お客様が求めるニーズを最優先し、信頼性が最先端クラウドアプサービスとして、生産、サービス品質を高めて、新たな利用者経験を図りたいと考えております。

日本総合研究所で実現したいキャリア

この会社での最終目標は何ですか

私は日本総合研究所でグローバルマネージャーとして、全世界に革新的な金融サービスを提供できるパイオニアになりたいと考えている。そのため、最初の２年間は、日本国内に対して、生成ＡＩなどの最先端クラウド技術を用いて、経済の不安などの多種多様な顧客のニーズを理解し、革新的なアプリ開発を通して金融サービスと新規顧客を拡大したいと思います。次の４年は私が持っている研究開発経験を活かして、量子コンピュータなどの最先端技術を取り込み、高い機密性と性能を持つ金融サービスを提供したいと考えております。この時、同時アジア中心に海外のシステム開発案件を関わって頂き、顧客の多種多様なニーズと海外の開発チームのノウハウを深めたいと考えております。これらの経験を踏まえて、次の４年に世界中に徐々に数多く巨大システムの開発案件において最良な品質を維持しながら、最先端技術により革新的な提案を図りたいと考えております。以上の計画により、日本総合研究所で金融サービスにおいて革新的に顧客利用体験を語るパイオニアの目標を達成します。

マネジメント経験

私は電気自動車の燃料電池評価システムのプロジェクトマネジメント経験があります。こちらのプロジェクトは要件定義から導入まですべての工程を担当いたしました。短時間の３カ月で、ガス、電気、機械、プログラミングの４つの分野の知識が問われる非常に複雑なプロジェクトであるため、会社の状況と強みに併せてスケジュールを策定する方針を取りました。具体的に、当社はガス専門会社でありガスの専門家が多数在籍しているため、リスクが低いと判断し、短い人月に設定しました。一方、電気とプログラミングの面においては、今まで取り組む事例がほとんどないことから、当プロジェクトのボトルネックと判断し、最優先として対応しました。さらに、各工程においてマイルストーンとプロトタイプを設けることで、発生するリスクをタイミングよく把握するとともに、システムの品質を各段階で評価できるようにしました。コストの面において、事前に会社の資源を調査し、既存部品を有効に活用することで予算を２０％節約することができました。優先順位を正しく定義することで、ユーザーの条件を2カ月半と予算の80％で終えることができました。それを踏まえて、私は全自動のシステム改善を提案し、予定の3カ月内に、コストと品質の面において期待を超える製品を提供できるようになりました。この経験を生かして日本総合研究所で正しく顧客の要件を抽出し、利用状況に合わせて実行計画とシステム設計を策定することで、顧客満足度を上げるとともに、柔軟に多種多様なニーズに対応していきたいと思います。

一方、チームのマネジメント経験に関して、大学時代に5人の開発チームをリードしました。このとき、研究テーマの決定から進捗（しんちょく）管理、成果確認を担当いたしました。研究メンバーの意思を尊重し、一人ひとりがリーダーであるマネジメント方法を取りました。一人ひとりの過去の経験、卒業までにやりたいこと、なりたい人物を聞いたうえで、彼らが自身で研究テーマを決められるように足りない知識の取得経路を私が設けました。このように、研究のモチベーションを高めて、さらにメンバーが研究に対して責任感が高く、計画と進捗（しんちょく）を自己管理できるようになりました。進捗（しんちょく）報告会では、研究で発生した課題をグループメンバー全員で話し合い、解決方法とアイデアを提案できるようにしました。そのおかげで、グループのメンバーがお互いの研究をよく知り、大きなビジョンのために、一人ひとりが協力して成果を出すようになりました。日本総合研究所ではこの経験を生かして、メンバーの個性と要望を尊重したうえで、一人ひとりが仕事に対して高い責任感、モチベーション、やりがいを引き出し、強い個人の集団の精神を高めたいと思います。

なぜPM、PMでやりたいこと、PMに向いている適正

私はプロジェクトマネジャーとして、調整力、リスク管理力、そして前進精神が重要だと考えております。調整力は顧客が求める条件と、会社が提供できる資産、開発チームの状況を正しく把握し、適切にスコープ、スケジュール、コストを定める能力です。これにより、開発チームに過剰なプレッシャーを与えずに高い品質を顧客に提供できるようになります。こちらの面に関しては、インターンシップの経験から私はタスクの難易度を会社の資産に調整し、優先順位を正しく定義することで、初期リリース期限を30％、想定コストの20％を節約することができました。また、研究テーマを与えるときも、メンバーの能力、経験と将来性を十分に考慮し、大きなパースペクティブから適切な部分へ導きました。

一方、リスク管理力の面において、早期リスクを発見するために、作業を小さくし、マイルストーンとプロトタイプを設けることで、各段階で品質を確認できるようにしました。さらに、研究成果の打ち合わせなどにおいてメンバーに簡潔なストーリーで報告するように要求し、作業の統一性と、スコープずれをスムーズに発見できるようにしました。これにより、リスクが大きくなる前にかつ発生する前に防止し、定められたコストとスケジュールを達成するようにしました。

最後に、プロジェクトマネジャーとしてチームの誰よりも、新しい技術と知識を身に着けようとする精神が必要だと思います。これらの知識は日々進化している顧客のニーズを正しく把握し、システムの提案につながるだけではなく、コスト、スケジュール、チームメンバーの調整も必要となります。さらに、新しい技術や多種多様な知識を生かせることで、リスクをより正しく想定し、最短時間で最低コストで対策を図ることができました。技術や知識の面において、私は強い好奇心と積極性を持っております。将来、顧客のクラウドニーズに備えて、自らクラウド資格を学び、さらに、SharePoint検索や勤怠管理などの個人プロジェクトを通して、これらの知識を生かす場面を設け、部署の事務に還元することができました。以上の3つの理由により、私はプロジェクトマネジャーとして覚悟を持っており、このキャリアをさらに上達できる能力、計画、視野を持っておりますので、ぜひ本ポジションを検討していただければと思っております。

あなたは本当にPMをやりたいんですか

自分を動物に例えると何か？その理由は？

私を動物に例えると象に似ていると思います。象のように普段の仕事で発見したコツや知識を積極的に周りに共有し、より大きな課題解決を目指しております。さらに、常に周辺の様子に気を配り、困っている同僚がいれば状況を伺って、必要なサポートを提供するようにします。新人の教育も象に似ており、新人が持っている能力を自由に発揮できるように、課題が発生していた場合すぐに解決策を示さず、ヒントやハンズオンを通して新人自身が調査できるようにしました。

業務で困難を乗り越えた経験

業務で一番失敗した経験は、最初の単体テスト計画にビジネス条件を十分に考慮していなかったことです。結果として、余計な0が数値の前に表示されるや、印刷したページに想定外の空欄が発生するなどの問題があり、ユーザーエクスペリエンスが悪化すると指摘をいただきました。このきっかけで、私はテストケースにおいてビジネス条件の検証をさらに学び、ユーザーの処理の流れと習慣により異なるエラーパターンの発生や設計書と要件定義の相違を発見するために重要な項目だと意識するようになりました。そのため、私はテスト計画と実装を行う際に基本的に5段階に分けて検証しました。1. ビジネス条件を要件定義書と設計書から確認し、さらにSharePointから過去の実行事例を通して、実際のシステムの利用環境と流れを想定し、検証ビジネス条件の一覧を出力します。2. 1から得られた背景に基づき、利用者の習慣や業務の流れ、定義したビジネス条件に対してそれぞれのテストケースを作成します。3. テスト計画に沿ってテストを実施し、エラーパターンと正常パターンの結果だけではなく、その妥当性も検討します。4. 検証ビジネス条件の一覧とテスト計画を突合せて、抜け漏れを確認します。5. 設計書と要件定義書を再レビューし、最初に発見できなかった条件などを確認します。この手順は基本的に３イテレーションにわたって検証することで、単体テストの品質を守ります。このように、失敗した経験に対して、慎重にその意味を学んだうえで、計画的に手順化することで、再発防止とともに、お客様に提供するサービスの品質を守り、改善を図りました。

業務での成功体験とその要因は何か

生成AIの開発プロジェクトにおいて、利用者体験を向上させる画面のデザインを提案することができました。保険システム開発において最初に依頼された単体テストにおいて、ビジネス条件の抜け漏れから失敗したことを受け、利用者体験をより重視するようになりました。その結果、生成AIの画面遷移と実際の利用者の習慣を比較した際に、不良を発見しました。具体的には、既存のシステムではユーザーが新規作成ボタンを押すたびに空のチャット履歴が作成され、ユーザーが操作しなくてもそのまま残されます。また、ドキュメント検索や文書要約などの機能ごとにチャットが作成されるという設計になっていますが、区分ごとに並ばないため、画面の見栄えが悪く、データベースの余分なレコードによってシステム性能が低下します。その結果、利用者が新しいチャットを作ることに抵抗があり、生成AIが想定の効率を発揮できませんでした。そこで、私は２つの改善を提案しました。１つ目はチャットの機能ごとの区分において履歴を管理し、機能をハードコーディングせずにデータベースで管理することで、将来の拡張を簡単に行えるようにすることです。２つ目は新規チャットレコードが作成されるタイミングを、ユーザーがボタンを押すたびではなく、実際にチャットに質問を投げてから作成するように変更しました。以上の２つの変更により、ユーザーの利便性が高まり、余分なレコードも回避され、全体的にアプリの応答時間が改善されました。以上、業務で発生した課題には私が前向きな姿勢で対処し、課題の根本的な原因から利用者の観点まで真摯（しんし）に検討することで、高い品質と信頼性のあるITサービスを導き出せたと考えております。